



「多摩市身のまわりの環境地図作品展」20周年に寄せて

多摩市教育委員会教育長 清水 哲也

この度、「多摩市身のまわりの環境地図作品展」が、20周年という大きな節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

本展に寄せられた作品の素晴らしさは、身のまわりの生活環境から問題意識をもち、調査・研究の成果を文字、グラフや絵を用いて環境に対する心情を表現し、地図としてまとめていることにあります。最近では、携帯電話・スマートフォンやパソコンの画面で地図を利用することが多くなっていますが、これまで応募された作品には、どれも子どもたちのふるさと多摩市への素直な気持ちがよく表現されています。一つひとつの作品が地図の枠を超え、コミュニケーションの機能を発揮し、優れた力をもっていると感じています。

さて、多摩市教育委員会では持続可能な社会の担い手を育成するために、「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズとして全小・中学校で持続発展教育・ESDを推進し、学校ごとに特色ある取組を行っております。持続発展教育・ESDでは、「人」、「自然」、「社会」とともに「環境」も大きなテーマとして取り上げています。児童・生徒が多くの学習や体験を通じて地域の環境に向き合い、多様な人たちと対話したり、自然に触れ合ったりしながら主体的に問題解決に取り組む力やコミュニケーションの力などを身に付けています。

持続発展教育・ESDの視点から作品を見ると、児童・生徒が環境をテーマに、これまでに学んだ知識と生活から得た経験とを結び付けて自分の考えを確かなものにし、相手に理解できるように、筋道を立て、分かりやすくまとめるなどの多面的な視点から地図に表していることに驚かされます。また、色鮮やかで美しく、澁刺とした作品は、未来への希望と意欲を表しており、見る人を明るい気分にさせてくれます。まさに持続発展教育・ESDで培った論理的思考力や表現力の成果が作品に表れています。出展された児童・生徒の皆さんには、作品にこめた思いや立場を明確にして説明するなどの活動を通して、自分の考えをより深めていくことを期待しております。

このように、児童・生徒が日頃の学習の成果を発信する場を与えてくださった運営委員会をはじめとする関係の皆様方に感謝を申し上げます。本作品展の成功と益々の発展を祈念いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。